



2月16日(日)午前10時から11時35分まで、第8回県民公開講座(第81回会員研修会)が、ウインクあいち5階小ホール2で開催され、248名(うち本会会員166名)が参加した。

ノルディックウォーキングの有効性を紹介

第8回県民公開講座・第81回会員研修会

今回の公開講座は、テレビでもご活躍の神戸常盤大学保健科学部看護学科教授の柳本有二先生に、「身体のゆがみを直して100歳まで歩ける体力をつけるコツ」と題してご講演頂いた。

柳本先生は、健康の意味は、Health(完全を作る)よりもWellness(よりよく生きる)の解釈が妥当であり、今の健康状態を把握することが大切とし科学的根拠を大事にした健康づくりについて述べられた。また高齢者の熱中症は骨格筋減少が原因であり予防には筋力トレーニングが大切であること、1日1万歩の科学的根拠、車社会やリモコンの利用など現代社会の便利な生活環境は健康に大きく影響していること、歩くことの意識をもう一度確認することが大切であること、再生医療の倫理問題などにも言及された。また、体重や脂肪、骨や認知症、糖尿病と運動の関係についても、さまざまなエピソードを交えて紹介された。



さらに、100歳になっても歩くには、重心が骨盤の上に高く位置すること、足底のローリング動作、しっかりした腕の振りが大切であることを、人類の直立二足歩行の進化を交え説明した上で、身体のゆがみや歩行の改善にはノルディックウォーキングが有効であるとされた。ノルディックウォーキングとは、2本のストックを利用しながら上半身の筋肉も使って行なう歩行運動で、年齢性別を問わず気軽に楽しめる効率のよいエクササイズのことである。

最後に、会場の参加者と指の分離トレーニングを実演、脳は手をつかさどる場所(体性感覚野の脳地図)が多いことや、除脳梗塞児が笑ったことなど、身体が動くことで心が変わる例を紹介。好きなリズムで歩くと心が嬉しくさせWellnessにつながり、自分の歩くリズムを認める社会が、これからの日本に大切な健康づくりの条件であると締めくくられた。

業界説明会を初開催

1月26日(日)午前10時30分から正午過ぎまで、会館講堂において「みなさんの未来のために」と銘打って、業界説明会が初めて開催された。県下の個人契約者と卒後2年間の柔道整復師、本会会員の勤務・家族柔道整復師に業界の現状や展望を示し、組織に入ることの重要性をもっと知ってもらうことを目的に行われ、勤務・家族柔道整復師15名とその他54名の、合わせて69名が参加した。



1. 業界はどこへ向かうとしているのか(業界の現状と将来)
森川副会長が、養成学校や柔道整復師の増加の推移や、受領委任払い制度制定の経緯と意義、協定と契約の違いなどを、多くのデータとともに説明し、特に昭和63年の個人契約が認められた頃から療養費の通減措置がますます厳しくなると述べた。バラバラな状態の業界が一本化して一致団結していかなければならない時代が来ていると結んだ。

2. 保険取扱いには生きた情報が必要(保険請求の現状)
堀保険部長が、公的審査会のシステムや、本会の療養費の請求と再請求の流れなどを説明。生きた情報とは、通達文書の行間の意味や、保険者や審査会の動向や意向、通達後の状況の変化など、通達された文書だけでは分からない部分の情報であり、本会では保険者らとのつながりなどの中でそれらの情報を会員に迅速に通知していると、本会の保険取扱いの取り組みや会員が受ける利益を強調した。

3. 新たな職域に活路を(介護予防機能訓練事業等)
長谷川広報部長は、有資格者と施術所の増加によりほとんどの柔道整

Welcome!! 新入会員

氏名	生年月日	支部	出身校	段位	趣味
腰嶋陸宏	S52.9.15	半田	米田柔整	1級	バスケットボール
竹内健二	S50.2.8	半田	米田柔整	初段	ゴルフ
伊藤 光	S63.5.11	笠寺	名古屋福祉	初段	カラオケ

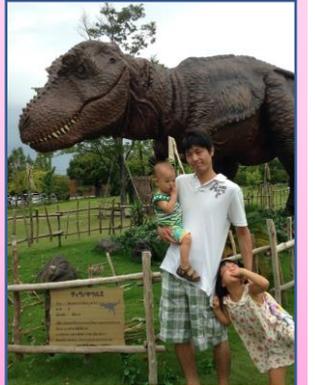


福澤敏夫 元理事 医療功労賞を受賞

祝

長年にわたり地域医療に貢献した人に贈られる「第42回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省・日本テレビ放送網後援、Eーザイ協賛)の都道府県医療功労賞に、福澤敏夫会員(鶴舞・72歳)が選ばれた。

手術をせずに捻挫や脱臼などを治す柔道整復師として40年近く活動し、地域の健康づくりに貢献してきた。「長年、現役でやってきたことが評価されたのでしよう」と、受賞を控えめに喜びを語った。1977年に同市昭和区に接骨院を開業。部活で骨折した高校生や、体が動く限り続けたいと、またまた現役を貫く決意を込めて、接骨院で治して子どもたちが平日、休日を含め、10年間、警察官を務めた」と振り返る。現在は、知識や経験をいかしながら、介護のデイサービスも行う。「地域の人のためになる生活を支えたい」と、またまた現役を貫く決意を込めて、接骨院で治して子どもたちが平日、休日を含め、10年間、警察官を務めた」と振り返る。現在は、知識や経験をいかしながら、介護のデイサービスも行う。「地域の人のためになる生活を支えたい」と、またまた現役を貫く決意を込めて、接骨院で治して子どもたちが平日、休日を含め、10年間、警察官を務めた」と振り返る。



↑ 腰嶋陸宏会員



→ 竹内健二会員



伊藤 光会員
当院のスタッフがつくってくれました!

福澤会員は昭和52年に入会とともに開業。昭和62年には理事に就任して事業部・保険部・経理部の部員を歴任し、7期にわたり本会運営に尽力された。現在はデイサービスを経営するかたわら、昭和区地域包括ケア会議推進委員、介護保険認定審査員としても活躍している。

「ココロとカラダを健康に! ~介護予防を活用しよう~」



名古屋市徳重地区会館体育室にて
緑区北部いきいき支援センター主催

1月23日(木)、二次予防事業ではどんな事をするのかを紹介する目的で、介護予防の説明・介護予防体操・体力測定等が行なわれた。緑区内の二次予防対象者の中から希望者を募り約80人が参加。伊藤 勝・和家博明・倉橋健司の3会員が体力測定コーナーで協力した。

笠寺支部会員
福祉フェアに参加協力

緑文化小劇場・ヒルズウォーク徳重ガーデンズにて
緑区地域包括ケア推進会議認知症専門部会主催

1月30日(木)、3会場に、のべ2,000人近くの参加者があり大盛況だった。伊藤勝・和家博明・倉橋健司・井本尚光・近藤芳生の5会員が会場3(ヒルズウォーク徳重ガーデンズB1ウォークコート)にて、姿勢のバランスチェック及び握力・片足立ちテストのコーナー運営に協力した。



復師は減収に喘いでいると前置きし、新しい職域として機能訓練指導員と介護予防事業の概略を説明した。また本会の取り組みや事業参画状況を説明し、組織の力があつたからこそ実現したものであると本会の有意性を紹介した。

* * * * *

初めての開催とあって、今後の参考のために参加者にアンケートを実施した。その中で「有意義な時間だった」、「大変勉強になった」などの肯定的意見も寄せられ、約9割が「研修会に満足」・「機会があつたらまた参加したい」と答えた。

終了後には個別に多くの質問が寄せられ、関心の高さもうかがえた。2・3人から本会入会の打診もあり、説明会開催の意義は大きかった。